

コミュニケーションロボットと 医療・介護の関わり

様々なコミュニケーションロボットが開発され、一般でも入手可能になってきている中、医療や介護においても活用が始まっている。今回、それらのロボットの紹介とともに、活用の現状と今後について触れたい。

講師 坂田 信裕氏
獨協医科大学 情報教育部門 教授・情報基盤センター長

日時 2017年1月7日（土）14:00～16:30（受付13:40～）

会場 早稲田大学 本庄キャンパス内 リサーチパーク
コミュニケーションセンター N401（4階）

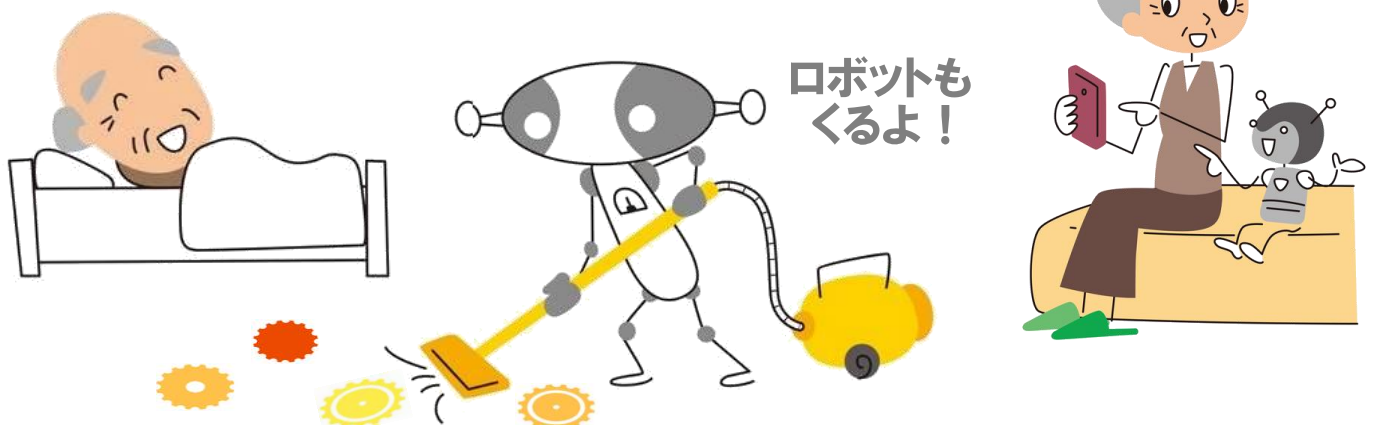
申込先 下記の専用フォームからお申込み下さい。参加費は無料です。
http://www.c-and-t.co.jp/htdocs/?page_id=81

申込期限 2017年1月6日（金） ※先着49名の募集

主催 遠隔医療をとことん考える会
後援 一般社団法人日本遠隔医療学会



申込先



● 遠隔医療とは何か 長谷川 高志氏（一般社団法人日本遠隔医療学会 常務理事）

高齢や重い病気で、病院への通院がとても苦しい患者さんは少なくありません。難病などで診療してくれる医師が近くにいない、通院もままならない患者さんもいます。僻地や離島で医療機関が無い地域に住んでいる患者さんも少なくありません。そんな方々でも医師に診てもらえる方法が開発されました。

最近では、インターネットや携帯電話などの発達で、いつでもどこでも綺麗な画像のテレビ電話を掛けることができるようになりました。優れた医療機器も開発されて、家庭で計った血圧の数値を通信で医療機関に送り、見て貰うことも可能になりました。遠くの病院のカルテを近くの医療機関からコンピュータで見られることも可能になりつつあります。このような新しい医療スタイルを「遠隔医療」と呼びます。遠くの医師がテレビ電話で診察をして、負担の大きい通院の回数を減らすことや、家庭での体調のデータを常に医師や看護師に捉えてもらい、生活上での指導を受けることなど、多くの取り組みについて研究や実証が進んでいます。

しかしながら遠隔医療は、まだ社会に広く受け入れられていません。遠隔医療のことを知る患者さん、医師や看護師がとても少ないです。健康保険での扱い（診療報酬制度）も整備が進んでいません。厚生労働省や都道府県庁でも検討が進んでいません。遠隔医療を希望する患者さんが増えれば、実施できる医療機関も増えます。健康保険での受診への道も広がります。多くの皆さんに遠隔医療を知ってもらい、必要とする人々の手に届くようにしたいです。



小笠原内科

患者宅

岐阜県岐阜市 小笠原内科の遠隔医療

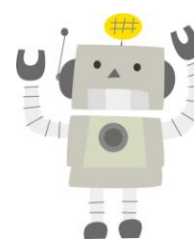
● 当日の予定

14:00 開会・ご挨拶

14:10 コミュニケーションロボットと医療・介護の関わり
(講師：坂田 信裕氏)

16:10 アンケート記入・閉会

◆当日の司会：酒巻 哲夫氏（一般社団法人日本遠隔医療学会 副会長）



● 交通のご案内 ※駐車場あり

①上越新幹線の場合

「本庄早稲田駅」下車 徒歩約3分

②JR 高崎線の場合

「本庄駅」下車

- ・本庄駅南口からタクシーで約10分
- ・本庄駅南口から「はにぼんシャトル」で約12～13分
(本庄駅南口～本庄早稲田駅北口間を運行中)

所在地：〒367-0035 埼玉県本庄市西富田 1011



● 当会の詳細はホームページへ（ブログで情報発信中！）

遠隔医療をとことん考える会ホームページ

<http://enkakutokoton.jimdo.com/>

※携帯電話やスマートフォンでQRコードをクリック→

